



事業実施内容

事業期間：2022年7月～2023年2月

2023年度からの殺虫剤散布を含むLSM実証を目指した計画を立案することを目的としながら、次の3つの目標を立てた。

目標 1

ドローンデモ飛行に対して、現地政府機関・大学・企業・地域住民から理解を得る。

目標 2

蚊幼虫繁殖リスク分類の機械学習モジュールが、少なくともリスク高/低の二値に精度高く分類可能となる。

目標 3

LSMに必要な人員配置、殺虫剤量、ドローン数等を把握し、収益化方針が明確になる。



固定翼型ドローンの機体について説明



地域住民へのドローン飛行にかかる説明会の様子

事業成果

回転翼型・固定翼型のドローンのp飛行試験を成功させた。さらに、連携パートナーであるンジャラ大学や現地保健衛生省、科学技術イノベーション局、地域住民等が参加するデモ飛行試験も実施し、ドローンや本事業の意義にかかる理解を獲得することができた。現地における水たまりや蚊幼虫の生息データを基とした、蚊幼虫繁殖リスク高/低を分類可能な機械学習モジュールを作成し、現状として80%程の十分実用に足る精度を示した。また、ンジャラ大学と連携して機械学習の精度を高めるデータ収集も継続しており、さらなる精度の向上が期待される。

事業の進捗

ンジャラ大学との連携を深化させ、データ収集に関するMoUを締結した。水たまりデータの収集を同大学の学生が行い、リスク判定の精度向上に寄与している。LSMとは異なるものの、マラリアリスクマップ作成に関する研究実証が現地政府事業として採択をされ、2024年中には取り掛かる見込み。